

シールで仲間

高校1年生

I アクティビティについて

ねらい

非言語コミュニケーションのみで仲間をつくる活動を通して、共通目的のために協力することや互いに共感や連帯感をいただくことの重要性を認識し、大切にしようとする態度を育てる。

◆◆◆視点◆◆◆

- ◎共感と連帯感
- コミュニケーション能力
- 自己尊重の感情
- 参加・参画

設定の理由

現代の青少年は、携帯電話やインターネットなどのIT機器の普及や、それへの過度の依存等により、他者との直接的な対話やコミュニケーションが希薄となりがちである。そのため、他者に対する共感、信頼感、連帯意識などの面での発達に問題が生じている。

そこで、「シールで仲間」というアクティビティに取り組みせることを通して、人間の生活においてコミュニケーション、他者への共感、連帯感が持つ意義や必要性を認識させるとともに、これを尊重しようとする態度を育てたい。

アクティビティの概要 (1時間扱い)

活動1 アクティビティ「シールで仲間」の実施
 ・言葉を使わず、額に貼ったシールの色ごとのグループに分かれる。

活動2 「ふり返り」
 ・話し合いを通して障害者の日常生活でのバリアについて感じ取る。

アクティビティーの実際

□ 準備するもの

シール：グループ30人に対して、6～7色。

各色の数は、統一しない方がよい。

大きさ、形は、自由。

会場（教室）：いす・机等を片づけ、30人が自由に動けるスペースを確保する。

□ アクティビティーの進め方

活動1 「シールで仲間」

① 「シールで仲間」の説明をする。

ア 教室の中央に輪になってください。しばらくして目を閉じてください。

イ これから私は皆さんの間を歩いて、小さなシールを額に貼っていきます

※額を嫌がる雰囲気がある場合は、背中に貼る等の代替をする

ウ 皆さんには参加しない自由があります。もしも参加したくない場合は、目を開いていれば参加したくないという意思表示になります。

エ （シールを貼った後）目を開けてください。他の人と話さないでください。そして、他者と一々話をせず自分と同じ色のシールの人と仲間になってください。

オ シールをはずして何色であるかを確認してはいけません。それから、他の人のシールを指さしてだれかに教えてはいけません。また、鏡などを使ってはいけません。

カ それでは、今の注意を守って、同じ色のシールの人と仲間になってみてください。

② 「シールで仲間」を実施する。

活動2 振り返り

① 「シールで仲間」を実施する過程で起こっていたことを意識的に見させ、多くのことに気づかせ、記入させる。

<振り返りの留意点と発問例>

○以下のような、「シールで仲間」を実施する過程におけるポイントを見落とさず、メンバー間で共有し、各自の経験に意味づけを行う

ことが大切である。できた、できなかったにとらわれず、それぞれが見たこと、感じたことを大切にさせる。

- ア 最後まで取り残された人(不安、葛藤、抵抗)
- イ さまざまな動きの端緒を作るリーダーシップ(沈滞、リーダー性同調、ブレークスルー)
- ウ メンバーのリードを受け入れる(安心感、波紋、同調、抵抗)
- エ 他の問題解決法について提案がある人(同調、協調、波紋、遠慮)
- オ アクティビティーに対して消極的な動き(抵抗、葛藤)
- カ 著しい仲間はずれ、対立、分裂などの状況には、早い段階で介入する必要がある。

発問例 「シールで仲間」を実施して、どんなことを感じましたか。どんなことに気づきましたか。

- ② ふり返り用紙を発表し、話し合いをさせる。また、心地よい働きかけ(笑顔、握手など)や、不快なジェスチャー(あっちへ行けという動作など)についても、ふり返って話し合わせる。

<ふり返りの留意点と発問例>

- 発表内容や観察していたことに対し、グループで共感したり、どのように感じていたかなど意味づけをさせることに配慮していきたい。
- 互いの感じ方に共感するとともに、メンバーに尋ねたりしながら話し合いを進めさせ、グループでの連帯感が持てるよう配慮する。

発問例 観察していたことや話し合いの内容で気づいたことはどんなことですか。

アクティビティを指導するポイント

- ◇ 実施する際は、あくまでもシミュレーションとして実施することを生徒に周知及び理解させてることが大切である。
- ◇ いじめが内在しているクラス等を対象に『シールで仲間』を実施した場合、予期せぬ悪影響も想定されるので、実施しないことが望ましい。
- ◇ 生徒の人間関係を十分把握した上で、本アクティビティを実施する。
- ◇ 実施後の人間関係や生活上の配慮が必要である。

Ⅱ 授業展開例

～高校1学年「LHR」における授業展開例～

時	学 習 活 動	教師の働きかけ
	1 「シールで仲間」についての説明を聞く。	
	「シールで仲間」を行う。(20分)	
	2 感じたことや考えたことを「ふり返しシート」に記入する(10分)。	○「シールで仲間」での経験を意識的に掘り起こすこと。そしてそれを言葉に替えて表現できるよう、意識づけをする。
1	3 「ふり返しシート」をもとに、感じたことや考えたことについて共有や意味づけをする(10分)。	○個人の感じたことは、グループで共有できることに気づかせる。 ○経験したことは、日常生活経験からも帰納・一般化できることに気づかせる。
	4 まとめ(5分)	○よりよい働きかけ方法を意味づける。 ○「シールで仲間」を通して意味づけられた働きかけ・受け入れ方法を、日常生活に応用する姿勢づくりをする。

Ⅲ 資料

(1) ふり返りシート

ふり返りシート

1 「シールで仲間」を実施してあなたは、

(1) どのくらい自分の意見や考えに従って行動することができましたか。

(どのような点で)

(2) どのくらい他のメンバーの働きかけを受け入れることができましたか。

(どのような点で)

(3) どのくらい他のメンバーに働きかけを受け入れてもらえましたか。

(どのような点で)

2 グループは、

(1) どのくらい率直に働きかけ合っていましたか。

(どのような点で)

(2) どのくらいお互いに、働きかけを受け入れ合っていましたか。

(どのような点で)

- 3 メンバーの働きかけに偏りはありましたか？もしあれば、それは個人やグループ、また課題達成にどのような影響がありましたか？
- 4 働きかけられることが多い人と、あまり働きかけられない人とがいましたか？もしあれば、それは個人やグループ、また課題達成にどのような影響がありましたか？
- 5 「シールで仲間」を実施する中で、メンバー相互の感情(喜怒哀楽、協力、抵抗など)はどのように扱われましたか？(自由に感情が表出されていたか、また、それは受け入れられていたか)
- 6 受け入れやすい働きかけ、あるいは不快なジェスチャーは、ありましたか。あったとすれば、それはどんなものでしたか？
- 7 その他、この「シールで仲間」を実施して感じたこと、気づいたこと、学んだことを自由に書いてください。